

令和5年度 国語表現 シラバス

校長	教頭

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	3	単位数	2
使用教科書	国語表現 改訂版(教育出版)			担当者氏名			

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 話す・聞く能力	c. 書く能力	d. 知識・理解
言語文化に対する関心を持ち、言語感覚を磨き、思考能力を高めるとともに、自分の意志を的確に表現し、伝えようとする意欲、態度が伺える。	自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、効果的に話したり的確に聞き取ったりする能力、相手の立場や考えを尊重して話し合う能力を身に付けている。	題材の選択及び効果的な表現をする能力、論理的な構成による文章表現能力、表現に役立てるための文章研究の成果が見られる。	言葉遣い、語彙力、漢字力、文法力、文学史をはじめとする言語、文学に関する知識を深めている。

単	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
4	1 コミュニケーションのために	・アイスブレイクを行い、コミュニケーションのための土台を作る ・ジェスチャーゲームや質問だけでお題を当てるゲームなどを行う。 ・ペアで相互インタビューを行い、他己紹介をする。	○	○			・授業態度 ・発問評価
4	2 文章表現の基礎	・文字の表記からわかりやすい文章の書き方で、文章表現に必要な基礎力について確認する。 ・語句の使い方や文のくड़ी方方を正しく理解し、わかりやすい文章の書き方方を学ぶ。 ・書き上げた文章を推敲するときの観点を具体的に学び、他者に理解されやすい文章の書き方方を学ぶ。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
7	3 小論文Ⅰ	・文章の「型」をさまざまな課題の学習を通して習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。 ・小論文のテーマ一覧を参照することで自己の論文テーマの幅を広げる。			○		・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
2	4 声の表現	・発声や発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	○	○			・授業態度 ・発表等の実践
4	5 人とつながる言葉	・ことばの性質やことばと人間とのかかわりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
5	6 面接—社会との接点	・自己を知り、場面を判断し相手に配慮して、自分の意見を述べるという面接の学習をとおして、社会への参加能力を育てる。 ・自己分析をとおして自分を理解し、自己アピールを作成する。 ・志望先の情報を集め、履歴書や志願書を作成する。 ・実際の面接の場面を想定し、伝わる話し方について理解して、面接における心構えと技術を習得する。 ・模擬面接をとおして、面接の基本事項を学び、実践力を身につける。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査

種	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	7 言葉遊びと創作	・意味の伝達という言葉の「中心」的機能だけでなく、遊び心のある言葉の世界を体験させる。これにより言葉のセンスを磨き、言語文化の歴史的な連なり・社会的な広がり学ぶ。	○		○	○	・授業態度 ・学習課題の提出
5	8 言葉を屈ける	・日常的なコミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に生かす。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題集の提出 ・定期考査
7	9 プレゼンテーションの方法	・これまで培ってきたコミュニケーションのさまざまな技術をプレゼンテーションで用いる。言語表現と非言語表現、音声表現と非音声表現の違いを知って、プレゼンテーションでこれらの表現要素を効果的に用いることができる。 ・情報の視覚化の方法を知り、それらを効果的に用いてプレゼンテーションを行う。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・プレゼンテーション ・定期考査
11	10 小論文Ⅱ	・3章で学んだテーマ型小論文に加え、課題文型小論文とデータ型小論文の二つのタイプの小論文の書き方を身につけるとともに、論文執筆の際のルールに習熟する。 ・課題文を的確に理解し、自らの意見を明確にして小論文にまとめる。 ・データを分析して、問題を提起し、小論文を展開させることができる。			○	○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
6	11 話し合いの方法	・目的に合わせた話し合いの形式や手法を学び、意思決定や合意形成のための会議の方法とルールを理解する。 ・ディベートの基本的な流れについて理解し、実際に取り組む。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・ディベート
2	12 エッセイを書く	・読者を意識し、手法を工夫したエッセイが書ける。 ・作品集を作り、合評会で意見を述べ合うことができる。 ・他者を楽しませる文章の特性を知る。 ・エッセイを読み、文章の魅力と効果的な手法を見つける。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出
3	13 物語を作る	・二次創作や絵、テーマなどから発想を広げ、物語の作成を楽しむ。	○		○		・授業態度 ・学習課題の提出
3	14 メディア・リテラシー	・身の回りのさまざまなメディアについて知り、それぞれの特性をふまえた情報発信とその社会的意味について認識を深める。 ・言語と画像について、メディアとしての特徴を知り、表現手段としての性質を理解する。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
4	15 社会にはたらきかける表現	・学校内におけるチャリティコンサートというイベントを企画し実行することを想定して、企画会議、渉外・広報活動、会場準備、事後処理などの一連の流れを学習することによって高等学校における国語表現の学習の総まとめを行う。 ・広報や渉外活動におけるメディア選択の観点について考察することで、表現とメディアの関係について学習する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査

令和5年度 教養国語 シラバス

校長	教頭	

教科名	国語	科目名	教養国語	学年	3	単位数	2
準教科書	国語必携 ライトパーフェクト演習 (尚文出版)			担当者氏名			

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 話す・聞く能力	c. 書く能力	d. 知識・理解
言語文化に対する関心を持ち、言語感覚を磨き、思考能力を高めるとともに、自分の意志を的確に表現し、伝えようとする意欲、態度が伺える。	自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、効果的に話したり的確に聞き取ったりする能力、相手の立場や考えを尊重する態度を身に付けている。	題材の選択及び言葉選びや文体などを工夫して効果的な表現をする能力、論理的な構成による文章表現能力を身に付けている。	言葉遣い、語彙力、漢字力、文法力、文学史をはじめとする言語、文学に関する知識を深めている。

単元	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
6	基本的な漢字・慣用表現	・日常生活に必要な漢字の読み書きや慣用表現を学ぶ。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
6	基本的な語彙	・現代用語やカタカナ語、慣用表現などさまざまな語彙の意味を学び、短文作成や寸劇などの学習を通して、語彙力を高める。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
8	基本的な文章の書き方	・文字の表記からわかりやすい文章の書き方まで、文章表現に必要な事項について確認する。 ・原稿用紙の使い方や文章表現のルールなどを理解し、わかりやすい文章の書き表し方を学ぶ。 ・書き上げた文章を推敲するときの観点を学び、他者に理解されやすい文章の書き方を学ぶ。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査
6	履歴書・志願書の書き方	・履歴書や志願書の基本的な書き方を理解し、記入内容を整理する。 ・志望先の情報収集を通して理解を深め、志望理由を明確にする。 ・自己分析を通して自分を理解し、自己アピール文を作成する。 ・読み手を意識した内容、表記を心がけ、自分の思いが伝わるような表現を目指す。		○		○	・授業態度 ・発問評価 ・学習課題の提出 ・定期考査

順	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
8	基本的な敬語表現・口語文法	- 基本的な敬語表現や口語文法について学び、その特徴を理解する。 - 面接や目上の人との会話など具体的な場面を想定した学習を通して、敬語表現や口語表現を身につける。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - 学習課題の提出 - 定期考査
16	話すこと・聞くこと	- コミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に生かす。 - スピーチや音読、紹介などの学習を通して音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - スピーチや音読等 - 定期考査
13	新聞を読み意見を述べる	- 身の周りのさまざまな出来事について関心を持ち、ものの見方や考え方を広げる。 - 興味関心のある新聞記事を選び、その記事を選定した理由や内容に対する意見や提案をスピーチや意見文として表現する。	○				- 授業態度 - 発問評価 - 学習課題の提出 - 定期考査
8	自分の意見を述べる	- 自ら決めたテーマについて、理由や根拠を明確にし、意見を述べる。 - 自分とは異なる意見にも目を向け、多角的な視点から物事を捉える力を養う。 - より伝わりやすい内容にするために、聞き手や読み手に合わせた内容構成や言葉選び、表現方法を意識する。	○	○			- 授業態度 - 発問評価 - 学習課題集の提出 - 定期考査

令和5年度 現代の国語 シラバス

校長	教頭

教科	国語	科目	現代の国語	学年	1	単位数	2
使用教科書	高等学校 新編現代の国語(第一学習社)			担当者氏名			

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもって言葉を効果的に使おうとしている。

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
6	「未知」はいくらでもある(宮内悠介)	・実体験を踏まえて提示された「未知」に対する筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・世界の捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・例示などの修辞を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 ・積極的に自分の体験から適切な題材を決め、文章にまとめようとしている。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を積極的に理解し、会話を地の文で表現した効果について発表しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査
6	言語としてのピクトグラム(本田弘之)	・ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・日本のピクトグラム掲示の特徴について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 例示などの修辞を理解する。 ・ 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・ 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・ 積極的に写真を伴う文章を読み、解釈したことをまとめて発表しようとしている。 ・ 学習課題に沿ってピクトグラムの問題点や修正案を考え、積極的に発表しようとしている。	○ ○ ○		○ ○ ○	
6	情報の探索と選択	・ 必要な情報を探す方法を理解する。 ・ 情報の信頼性や妥当性の吟味のしかたを理解する。 ・ 情報の探索と選択を実践できるようになる。 ・ 進んで情報探索の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。 ・ 進んで情報の信頼性や妥当性を確かめ、学習の見通しをもって吟味しようとしている。 ・ 情報の妥当性を具体的に検討し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	○	○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出
7	社会に対する意見文を書く	・ 意見文とはどういうものかを理解する。 ・ 自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。 ・ 意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。 ・ 教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。 ・ 目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。 ・ 書いた意見文を進んで批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫しようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 意見文の提出
6	十六歳のとき (星野道夫)	・ 人生の岐路となった筆者の旅を追体験することにより、世界にはさまざまな出会いがあることを知る。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・ 自分の考えが的確に伝わるように、根拠の示し方を工夫する。 ・ 人生の岐路について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・ 調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・ 粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・ 本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 ・ 筆者の事績を調べ、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して報告しようとしている。 ・ 積極的に比喩表現について理解し、文脈に沿って意味を説明しようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査
7	図書委員会のポスターの掲示内容を検討する	・ 与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。 ・ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・ 異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。 ・ 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する方法を学ぶ。 ・ 読み手からの助言などを踏まえて、目的に応じて書かれているかを確かめ、書き直す手順を学ぶ。 ・ 異なる形式で書かれた複数の文章を粘り強く読み、理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・ 複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、文章の構成に注意してまとめようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 ノートの提出
6	「弱いロボット」の誕生(岡田美智男)	・ 「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・ 筆者が開発した「弱いロボット」について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・動画と本文を比較して、わかったことを積極的に説明しようとしている。 ・本文を読んでロボットと人間との関係性について考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。			○	
6	イースター島に なぜ森がないの か（鷲谷いづみ）	・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・持続可能性について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・例示などの修辞を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・個別の事例を一般化する文章の効果的な組立て方を理解し、学習課題に即して解釈を深めようとしている。 ・本文の解釈を踏まえて持続可能性について考えを深め、積極的に考えたことをまとめようとしている。 ・本文を読んで考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査
6	理想の修学旅行 をプレゼンする	・情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。 ・効果的なスライドの作り方を理解する。 ・今までの学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的にプレゼンテーションを行おうとしている。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。 ・協働して資料や機器を用い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。 ・積極的にプレゼンテーションを開き、評価の観点に沿って評価しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出
7	身近な製品の取扱説明書を作成する	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。 ・わかりやすい説明を実践できるようになる。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に身近な製品の取扱説明書を書こうとしている。 ・書いた説明書を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ 取扱説明書の提出
7	地域の魅力を紹介する	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に紹介文を書こうとしている。 ・目的に応じて題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。 ・書いた紹介文を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 紹介文の提出

令和5年度 言語文化 シラバス

校長	教頭

教科	国語	科目	言語文化	学年	2	単位数	2
使用教科書	高等学校 新編言語文化(第一学習社)			担当者氏名			

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
5	島の少年一船(内海隆一郎)	- 描写に表れた登場人物の心情をそれぞれの視点に立って読み解き、少年を中心に置いた小説の展開を捉える。 - 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 叙述を基に登場人物の心情や人物像を捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。 - 比喩や方言といった表現の効果について、学習課題に従って評価しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査
1	古文の学習	- 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 - これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。		○	○	授業態度 発問評価
2	鳩と蟻のこと 古文を読むために1	- 話の内容を口語訳で押さえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 『イソップ物語』の翻訳という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 主として歴史的仮名遣いについて、文語のきまりを理解する。 - 歴史的仮名遣いの読み方を積極的に理解し、繰り返し音読しようとしている。 - 粘り強く口語訳と対照して説話の内容を捉え、学習課題に沿ってわかったことを伝え合おうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査
2	一休ばなし 古文を読むために2	- 話の展開と内容を押さえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 - 仮名草子という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		- 主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 - 積極的に説話を読み味わい、叙述に基づいて機知の内容を説明しようとしている。 - 積極的に古文特有の言葉を理解し、学習の見通しをもって、単語に分けようとしている。	○		○ ○ ○	学習課題集の提出 定期考査
1	道程（高村光太郎）	- 近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 近代詩の表現の技法とその効果について理解する。 - 繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 - 詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	○	○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
1	小景異情（室生犀星）	- 文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の思いを読み取る。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 - 詩の構成や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。		○	○ ○	
1	六月（茨木のり子）	- 現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた世界への思いを読み取る。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 - 題名や内容に注意して、この詩で理想とする世界についてまとめようとしている。		○	○ ○	
1	I was born（吉野弘）	- 散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。 「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 「僕」の理解したイメージを自分事として共有し、考えたことを積極的に話し合おうとしている。		○	○ ○	
7	児のそら寝 古文を読むために3	- 現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文の世界への親しみを深める。 - 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 主として古今異義語について、文語のきまりを理解する。 - 積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。 - 時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査
7	羅生門（芥川龍之介）	- 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 - 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 - 作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 読書の意義と効用を理解する。 - 登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 - 老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、学習課題に沿って、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 - 典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査
7	伊勢物語 古文を読むために4 〔歴史の窓〕	- 和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。 - 歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 課題に応じて調査する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 - 主として形容詞の活用と助動詞について、文語のきまりを理解する。 - 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 - 文化的背景を十分に理解し、作品に表れた美意識について、考えたことを積極的に伝え合おうとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査

時数	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
5	大切な言葉	- 我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。 - 短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。 - 作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 成果物の提出 定期考査
4	〔言語活動〕 折句を用いて短歌を作る	- 折句を用いて、感じたことを短歌で表す。 - 我が国の言語文化に特徴的な折句の表現の技法とその効果について理解する。 - 進んで折句の技法と伝統を理解し、学習課題に沿って折句を用いて短歌を創作しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 短歌の提出
4	漢文の学習	- 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 - 我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 - これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深めている。	○	○	○	授業態度 発問評価
4	訓読に親しむ 漢文を読むために	- 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 - 漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 - 漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 - 故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 - 訓読のきまりを理解する。 - これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 - 日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
6	五十歩百歩 矛盾 狐借虎威	- 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 - 文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 作品の歴史的・文化的背景を理解する。 - 訓読のきまりを理解する。 - 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 - 故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 成果物の提出 定期考査
6	唐詩の世界 漢詩のきまり	- 表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 作品の歴史的・文化的背景を理解する。 - 漢詩のきまりを理解する。 - 漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 - 粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査
4	人形浄瑠璃文楽 一三業一体の技	- 我が国の伝統芸能に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現の技法などについて興味を広げる。 - 我が国の伝統芸能について書かれた文章を読み、関連する事項について調べたことを整理して説明資料にまとめ、発表する。 - 言葉には、文化の継承を支えるはたらきがあることを理解する。 - 我が国の伝統芸能について書かれた文章を積極的に読み、自分の考えをもとうとしている。 - 継承されてきた言語文化に興味をもち、学習課題に沿って、調査した内容を説明資料にまとめようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ